

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

		要 旨
学位申請者	萩原 真美 【人間発達科学専攻 平成25年度生】	
論文題目	占領下沖縄における社会科成立史研究	本研究では、占領下沖縄において、本土の戦後教育改革の目玉の一つとされた社会科が、どのような過程を経て、いかなる性格の教科として成立に至ったのかを検証した。研究対象地域は、米軍による占領の拠点であった沖縄群島を中心とした北緯 30 度以南の南西諸島、対象時期は、米軍の占領が開始した 1945 年 4 月から、1948 年 4 月に八・四制から六・三・三制への学制改革により社会科が成立し、1949 年 4 月に社会科の授業が開始されるまでの 4 年間である。
審査委員	(主査) 教授 米田 俊彦	<p>本研究はⅢ部構成となっている。第Ⅰ部は、占領下沖縄における社会科成立の背景、具体的には、戦後初の教育制度である八・四制の施行(1946.4)から、社会科成立の直接的な要因となった六・三・三制への学制改革を行い、六・三・三制が導入(1948.4)までの経緯について詳述した。第Ⅱ部は、社会科前史として位置づく人文科公民、歴史、地理について、教育課程、ガリ版刷り教科書・教授要目・教師用参考書等、教員の授業ノート等から、その教育内容、教育課程及び科目毎の特質を明らかにした。第Ⅲ部では、1948 年 4 月に六・三・三制の導入に伴う社会科の設置から、実際に社会科の授業が開始するまでに 1 年間の時間を要した事情について叙述した。</p> <p>本研究で得られた主たる成果は以下の 3 点である。第一に、占領下沖縄における社会科成立は、八・四制下で使用していた沖縄独自の謄写版の教科書(ガリ版刷り教科書)から、本土の六・三・三制下の教科書を輸入して使用するという教科書事情の大転換によって、教育制度もそれに合わせて六・三・三制へ変更したことが大きな要因であった点である。第二に、上記の経緯を経て成立したため、沖縄の社会科は、本土のように戦前の教育を刷新し、「民主化」「非軍事化」という戦後教育改革の理念の実現を目的とした性格のものではなかった点である。第三に、沖縄の社会科は、本土の社会科の教科書を用いつつも、沖縄民政府文教部が副読本を作成し、社会科の枠組みの中で沖縄の歴史を扱った点である。沖縄の歴史を正規の教育課程で扱えることは、戦前の本土を中心とした教育とは違い、沖縄人としての教育ができることを意味する。沖縄の人々は、そのこと自体に復興への希望の光を見ており、意義のあることと認識していたのである。</p>
	准教授 富士原 紀絵	
	教授 池田 全之	
	教授 棚橋 訓	
	専任所員 大里 知子 (法政大学沖縄文化研究所)	